

◆『きめる！共通テスト』

・第3問（実用文）の対策は最後（優先順位は高くない）

↓ ー80点分はこれまでと同じなので、まずはそこを押さえる

・配点は、第1問、第3問でー10点。試作問題からは第1、2問が各45点、第3問が20点の見込み
・問題に慣れることが重要。↓ 過去問を活用せよ！（第3問であれば、試作問題を活用）

・実用文読解の土台は、評論文の読解にある。

・スピードを意識した読解、演習を行う。

・第3問の解答目安時間は、「10分強」。

・「探求学習」の再現が、第3問を含む共通テスト新課程問題の意図。

・「探求」では、「表現力」、つまり「自分で考え、判断し、表現する力」を問いたい。

・「探求問題」で問われる内容は、大学進学後に必要となる力。（例えば、卒論の制作などで。）

・解答のポイントは、「時短」。

・「実用問題」とは、「複数の資料の情報を比較・検討しつつ自分の主張をまとめる力を問う」問題。

・「図・グラフ」は、ピンポイントで見えるもの。（見るべきポイントがある。）

・読解の手順

① 「リード文」から〈設定〉を確認する。

↓ 「まとめ・レポート」など中心となるものを掴む

② 「まとめ・レポート」を読み進め、その導き通りに〈資料〉を見る。

・「まとめ」の内容を読解すれば、必ずしも〈資料〉に目を通す必要性があるわけではない。

・見出しや傍線部といったヒントを活用して解く。

↓ 必要な情報を見つけるために、メリハリを付けて資料を確認（読解）する。

◆『点数が面白いほどとれる本』

・読解のポイントは、「検索」と「共通テーマ」

・解答根拠を素早く「検索」することが肝要。

↓ グラフや図などのテキストは、全体をしっかりと読んだり確認したりする必要はなく、設問に答えるために、テキストのどの部分を見ればよいのかさえ分かれば良い。

・評論文や小説のようにあらかじめすべてを読解する必要はなく、設問を見てから必要な部分だけを「検索」する。
・テキストの主従関係を理解する。

↓ 図表は、それを全て読むことが目的ではなく、他に何か目的があつて、それに適合した部分を理解すればよいという性格のテキスト。

・図表やグラフは隅から隅まで見る必要はなく、設問の要求をつかんだ上で、設問を解くのに必要な部分だけを探して、そこだけを確認すればよい。これが、「検索」することということ。

・設問をよく読んで、見るところを絞れば、時間が短縮できる。

・読解においては、まずは文章をしっかり読み、設問で必要になったときに図表などに立ち返る。

・「実用的な文章」とは、「図表」〈グラフ〉「条文」などといった資料のこと。

第3問の構成は、異なる種類や分野の文章などを組み合わせた、複数の題材による問題

〈文章〉と〈図〉の両方に関わる「共通テーマ」を掴む。

↓リード文や文章のタイトル、図表やグラフのタイトルから把握することができる。

・組み合わせ型の選択肢の場合、消去法を活用することで、効率よく選択肢を絞り込むことができる。

◆『集中講義』

・実用的文章とは、日常的な言語活動の場面で使われる文章および、言語活動を文章化したもの。

↓一題の中に複数の資料が含まれる。「目的や場面に応じて、情報を的確に理解」する力が求められている。

・実用的文章で問われる読解力は、「目的に応じて、必要な情報を判断して抽出し、解釈・統合する力」

・「設問の解答に必要な情報」を押さえる。

・リード文や図表のタイトル、出典、見出しに注目し、資料がどんな情報を示しているかを最初に確認する。

・図表と対応する文章に注目する。

・設問を読解の指針とする意識を持つ。

↓「設問要求の分析」が重要。設問を手掛かりに、「必要な情報」を捉える。

・正答へのアプローチ

① 傍線部や空欄のある設問

② 傍線部や空欄のない設問

・資料に関して、〈文章〉の形式になっているものに対するアプローチ。

↓全て読むのではなく、設問をもとにあくまでも「検索」することが有効。

例えば、接続語などを目印として焦点となる内容をピンポイントで押さえる。

・設問で求められていることに対して答える「根拠となる内容を「検索」する意識が大切。

◆『実戦対策問題集』

・出題の特徴

① 複数の資料

② 〈生徒の学習の場面〉を想定

↓資料を用いて生徒がレポートや文章を書く、議論する、レポートなどの構想メモなどをつくる

・設問の特徴

① 個々の資料の読み取り

② 複数の資料を関連させて考えを導き出す比較・統合・応用的思考を問う

③ 生徒の作成した文章・メモなどの推敲

・アプローチの仕方

- ① 基本は、評論文の読解
- ② 図表への慣れ
- ③ 設問への慣れ

・設問要求を押さえる。

- ① 何が問われているのか
- ② その問いに答えるためには何をどのように考えていけばよいか
を見定め、それに沿って考えていく

・第1問・第2問と比べ、文章・資料を深く読み込むというよりは、へ設問文、選択肢を見て、何が問われているかをつかみ ↓ 文章・資料の中からそれに対応する情報を見つけ ↓ 適否を判断する」という作業を求める側面が強い。

・リード文、文章・資料から大まかな内容や全体像を把握する。

◆ 分析

・まず、設問文を確認することが重要。

文章や図表のどこを、どの程度確認すれば問題が解けるかを見当する。